

街で見かけた

きもの美人

まだまだコートや羽織は手放せませんが、少しずつ木々や空の色に春の気配を感じる季節になりました。日本人のDNAは、季節の移ろいに敏感で、そしてそれに上手に合わせ暮らし、生きる知恵が備わっているようです。オシャレをして出かけたくなるのも春が呼んでいるからかもしれません。お友達を誘って、街へ出てみませんか。



春らしいシンプルな小紋とエレガントな紋りの帯のところがところに見える天色(あまいろ)が光ります。



なんとも妖艶な後ろ姿。きもの帯も花吹雪です。



紅淡緑の小紋は長く楽しめるのがいいですね。帯や小物でさまざまなアレンジが楽しめます。帯は薄花桜色。春の青を上手に取り入れていらっしゃいます。



ブラックオパールか、真珠貝を彷彿とさせるエキゾチックな紋りのきものにざっくりとしたつづれの帯、さりげない橙色の挿し色でセンスが際立ちます。



見返り美人!? 京紫の帯に縹(はなだ)色の帯揚げが効いています。



華やかな大人っぽい小紋に、ダイナミックな扇を描いた帯でインパクトを出しました。



よく晴れた春の日、「和創美」一行は、東京は芝にある「うかい亭」で会食です。



森本純子さんは、鮮やかな萌葱色の加賀友禅訪問着で、初釜へおでかけです。格の高い装いに新年の慶びがあふれています。



高橋郁子さんは、葛飾北斎の遺した図案のきものです。一見すると無地にも見えますが実は「文」の文字が小さく染められているという通好みのきものです。



大目木美穂さんは、大学の卒業式に黒地の振袖にえんじ色の袴を着けて華やかな装いで。



華やかな小紋に上品な帯がよくお似合いの石田啓子さん。春のお茶会のお手伝いでの若々しい装い。



山形県鶴岡市の長谷川裕子さんからうれしく楽しいお便りです。二男二女を育て上げ、ご長女が目出たく嫁ぐ日の、4人のお子さまの思い出のスナップ。吹雪の山形を発ち沖縄のビーチのチャペルに着いたら真夏だったとか。帯のところに汗疹をつかったエピソードに、10年前に天国へ旅立ったご主人も喜び、そして笑ってらっしゃるかもしれません。



着付教室のお仲間と「艶姿デビューです」と写真を送ってくださったのは茨城県守谷市の吉岡映子さん。それぞれお気に入りのきもでおしゃれをして、水天宮(東京日本橋)へお参り、ロイヤルパークホテルでお食事、そして人形町、甘酒横町の散策と、きものライブを満喫した1日でした。



山梨県中巨摩郡の保坂恭美さんは、入社試験の会場で出会い、共に正社員になり、勤続33年が過ぎたという仲良しの米倉さんと美術館でのツーショット。後ろは「さをり織」、保坂さんのきものは越後絨で米倉さんはセーター。なんとなく全体がうまくマッチしているのは長年の付き合いの為せる業!?



愛知県常滑市の鈴木佳子さんから届いたおめでたい写真は、義弟さまの結婚式の一幕。このとき佳子さんは妊娠9か月という慶びが重なったご家族の笑顔に幸せを分けていただきました。佳子さんのきものは結婚する時に伯母さまがプレゼントしてくれたもの。着付け初心者の佳子さんに、着付けでも先輩の義姉さまはいたわりながら上手に着せてくれたそうです。きものと家族の絆の素晴らしい姿を改めて教えていただいたような気がします。

